

「森の雪どけ」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

地球は 46 億年の歴史の中で、少なくとも数回の「全球凍結」を経験しているという。「全球凍結」というのは、両極から赤道まで、陸も海もすべて雪と氷に覆われてしまった状態である。そうなると、アルベド効果が極大になり、太陽光をほぼ 100% 反射してしまう。そうなると、再び温まることはなく、地球は永久に凍結から脱出できない・・・と思われていた。しかし、地球は見事に凍結から脱出した。プレート運動によって、火山の活動が続いていたからだという。

雪野原も同じである。牧草地に雪が積もると、簡単にはとけない。ところが、どこかに石ころや木の枝があると、その周辺から雪解けが始まる。明らかに熱を吸収しやすいのだ。雪どけを意図的に早めたい時は、雪の上に砂をまいておくと、明らかに速くとける。

3 月に入ると、北軽井沢でも雪どけが始まる。森の雪どけは面白い。必ず樹木の根元からとけ始める。樹木が太陽光を浴びて温度が上がるのだろうが、どうも、樹木そのものが「体温」のようなものを持っているような気がしてならない。



「根元からとけ始めた森の雪」

一旦、少しでも地面が現れると、その地面が熱を吸収し、更に周りの雪をとかす・・・その循環でどんど

ん雪どけが進むのである。



「雪どけが進む森」



「小鳥の餌台の周囲の雪どけ」

この効果は、人工的なもの（たとえば杭や柱）でも起こる。動物の足跡で、雪が薄くなった場所から雪どけが進む場合もある。こうして 1 メートル近くあった積雪も、徐々に低くなってゆく。

一番最後までとけずに残るのは、屋根から落ちて積もった雪である。これは 5 月中旬まで残ることもある。北軽井沢では、まだまだ雪の変化を観察できそうだ。